

第2回名立区地域協議会 次第

日時：令和5年5月30日（火） 午後4時から
場所：名立区総合事務所 2階 第2会議室

1 開 会

2 報告事項

- (1) 中山間地域農業「将来ビジョン」の完成と実践に向けた取組方針について
…資料 No. 1

3 協議事項

- (1) ろばた館利活用検討会について
…資料 No. 2

4 その他事項

5 閉 会

「みらい農業づくり会議」開催状況と「将来ビジョン」取組内容の一覧表

資料No.1

1. 開催状況（参加人数：延べ1,110人、うち女性123人）

地域自治区名	第1回 (農地と地域の強み・弱み等の整理)	参加人数		第2回 (今と将来の取組内容等を整理)	参加人数		第3回 (取組の優先順位付け等)	参加人数		グループワーク (テーマ別に具体策を検討)	参加人数		第4回 (将来ビジョンの検討と決定)	参加人数	
		うち女性			うち女性			うち女性			うち女性			うち女性	
谷浜・桑取区	令和3年12月14日	34	8	令和4年3月29日	26	8	令和4年6月28日	24	5	テーマ別に2回実施	56	13	令和5年3月29日	28	5
安塚区	令和3年11月25日	32	3	令和4年3月25日	33	3	令和4年7月7日	29	1	—			令和5年3月17日	25	1
浦川原区	令和4年3月14日	30	2	令和4年3月28日	29	1	令和4年7月12日	29	1	令和5年10月31日	23	1	令和5年2月21日	19	1
大島区	令和3年11月30日	37	3	令和4年3月24日	32	2	令和4年7月4日	31	3	—			令和5年3月22日	24	1
牧区	令和3年11月29日	37	7	令和4年3月23日	25	3	令和4年11月9日	24	3	—			令和5年3月27日	19	5
吉川区	令和3年11月19日	34	1	令和4年3月23日	29	1	令和4年7月12日	28	1	令和5年11月17日	37	2	令和5年2月22日	33	-
板倉区	令和3年11月26日	33	5	令和4年3月22日	23	4	令和4年10月26日	22	3	—			令和5年3月22日	17	3
名立区	令和3年8月20日	38	8	令和3年12月21日	31	2	令和4年6月22日	26	4	テーマ別に2回実施 (組織育成Gは4回)	85	7	令和5年4月12日	28	2
		275	37		228	24		213	21		201	23		193	18

2. 「将来ビジョン」取組内容

地域自治区名	【キャッチフレーズ】 ありたい姿	担い手・後継者の確保	農業生産維持に向けた作物選定 ・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化 ・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善	事務局的作用を担う 「活動のエンジンとなる組織」
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしさである海から山までの地域資源を活かし、地域内外との交流により、桑谷ファンを増やします！！	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験の受入に向けた体制整備 農業体験希望者の受入 担い手の募集 マニュアル（就農）の作成 半農半「X」の推進 地域おこし協力隊の導入（検討） 	<ul style="list-style-type: none"> 山菜の収穫作業体験を促進する 山菜を活用した所得補償 振興作物（ブルーベリー等）を栽培する 情報を発信する（特産品の販売等） 	<ul style="list-style-type: none"> 農作業の共同化を進める ドローンによるカメムシ防除を共同で実施する ラジコン草刈り機による法面除草の共同作業 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥獣被害対策の実施（地区全体を広く網羅する電気柵等の設置） 農道、水路等のインフラ管理体制の構築（管理の省力化に向けた整備を含む） 基盤整備の実施 農地貸出 	「NPO かみえちご山里ファン倶楽部」と「桑谷農業振興会」との共同体
安塚区	安塚区らしさである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします！！	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信体制を検討し、新規就農希望者を募集 法人設立の検討 移住者、定年帰農者の受入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 米の安塚区ブランドの検討 自然薯オーナー制度の検討 イチジクとクルミシロップの試験的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> ドローンの活用を推進する 関係機関に対して、農業機械のリース制度の充実や農業機械導入の補助率アップを要望する 	<ul style="list-style-type: none"> 基盤整備の検討（用水路、暗きょ排水を含む） 農地の集約、集積の実施 	安塚区みらい農業づくり会議に参画した団体を中心に、新たに「(仮称)安塚区みらい農業づくり推進協議会」を組織する予定。
浦川原区	浦川原区らしさである伝承技術と農村文化を活かし、豊かな地域資源の活用と異業種間の連携により、将来世代につながる持続可能な農業をめざします！！	<ul style="list-style-type: none"> U・Iターン希望者等の半農半Xの生活環境づくり 農作業コンテストを通じた区の魅力発信及び農家同士のコミュニティづくり 水路・農道等の新たな管理体制の仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 竹の有効利用 朴葉飯の商品化 米粉を活用した商品化 	<ul style="list-style-type: none"> スマート農業で若者への魅力発信と生活環境の整備を促進 農業機械の共同利用の推進 異業種間連携による農業受託事業の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 主食用米以外の作物栽培の促進 蜂蜜の製造・販売の促進 	浦川原区フューチャーデザインワークショップに参画した団体を中心に、新たに「(仮称)浦川原区みらい農業づくり推進協議会」を組織する予定。
大島区	大島区らしさである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします！！	<ul style="list-style-type: none"> 地域の受入体制の構築と地域おこし協力隊の導入を検討 農業参入する会社を募集する 残す農地、貸し付ける農地、やめる農地の線引きを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 農産物と地域の魅力の情報発信 農産物を加工し、高付加価値化による所得の増収を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 農業機械の共同利用の促進と農作業の共同化に取り組む 市を通じて、NOSA Iによる防除の継続を希望する ドローンの活用を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 残す農地を明確にする 農道、水路、ため池の整備を行う 人・農地プランの理解の浸透を図る 	大島区みらい農業づくり会議に参画した団体を中心に、新たに「(仮称)大島区みらい農業づくり推進協議会」を組織する予定。
牧区	牧区らしさである・自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします！！	<ul style="list-style-type: none"> 女性が参入しやすい環境づくり 女性・若者農業イベントに対する農業体験の開催と交流人口の拡大 空き家・空き地・農地付き空き家の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> こだわり米の生産推進 女性が参加しやすい農業イベントの開催 SNS等を活用した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 農業3Kのイメージ払拭 ドローンの導入促進 	<ul style="list-style-type: none"> 圃場整備、暗渠配水の促進 農業用排水、ため池の整備促進 	「地域運営協同組合（農業＋商工観光）の（新組織設立）」ほか
吉川区	吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大により、担い手農家の確保・育成を図ります！！	<ul style="list-style-type: none"> 移住者（地域おこし協力隊等）の受け入れ 地域の魅力発信 非農家や企業との協力体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 「吉川ブランド」の確立 山菜の栽培 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に合ったスマート農業 農業機械の共同利用 	<ul style="list-style-type: none"> 守るべき農地の明確化（集落戦略の見直し） 条件の悪い農用地の活用 農業用施設の整備 山林の整備 	「みらい農業づくり会議」を発展させた「農業者と関係機関が連携した新たな組織」
板倉区	板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます！！	<ul style="list-style-type: none"> 平場から山間地へ担い手の協力（支援）体制づくり 既存人材育成生機会の利用促進 移住者受入のPR強化 	<ul style="list-style-type: none"> 棚田米の付加価値PR そばの生産・加工・販売の強化 インターネット等を活用した米・そばのPR 	<ul style="list-style-type: none"> 板倉区全体で共同利用できる農業機械の導入 平場の農業法人への作業委託 	<ul style="list-style-type: none"> 農道・用排水路及び用水乗入道路の整備 耕作者のいない農地の共同作業 	「板倉区中山間地域農業振興会」、「生産組合の連合体（新組織立上げ）」ほか
名立区	名立区らしさである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます！！	<ul style="list-style-type: none"> 農業体験の受入に向けた体制整備 農業体験希望者の受入 担い手の募集 農業体験の実施 空き家情報の発信 農作業の協同化 	<ul style="list-style-type: none"> 梅を新植する ソバを生産、拡大する（イベントや特産品の開発含む） 情報を発信する 	<ul style="list-style-type: none"> 農作業の協同化を進める ドローンによるカメムシ防除を共同で実施 ラジコン草刈り機による法面除草の共同作業 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の有効利用促進（農地集積、遊休農地の活用、多面的な利用）及び基盤整備事業の実施 農業インフラを整備（農道・水路の整備） 	「名立区農業振興協議会」を中心とする区内農業団体（集落協定・多面組織等）の協議体

「名立区」の将来ビジョン

ありたい姿(キャッチフレーズ)

名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

実現するための4つの柱(方向性)

担い手・後継者の確保



- 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。
- 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。
- 将来的には、移住・定住者を増やします。

農業生産維持に向けた作物選定・所得確保



- 名立区「らしさ」"ならでは"を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。
- SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。

農業機械・スマート農機の共有化・共同利用



- 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。
- 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。

土地利用の明確化・農地条件の改善



- 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。
- その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

アクションプラン

短期

令和5年度からの取組 ⇒ 「ロードマップ」を参照

中長期

区分	取組内容	いつ	だれが	どうやって
農業機械	農作業共同化組織の設立	10年後	JA青年部	直払棚田加算
土地利用	観光・家庭菜園農地の貸出	10年後	集落協定	最適土地利用対策
土地利用	基盤整備の実施	未定	土地改良区	農業農村総合整備対策

事務局的作用を担う「活動のエンジンとなる組織」

「名立区農業振興協議会」を中心とする区内農業団体(集落協定・多面組織等)の協議体

現状と方向性

- 過疎化高齢化により、幹線用水の維持管理や特産品である梅の生産にあたる人員が不足
- 将来の担い手にもつながり得る外部人材の受入れノウハウなどが不足

過疎化高齢化による人材不足は区内共通の問題であるが、受入れや情報発信のノウハウが不足しており、これら区内共通の課題に向き合う組織として、地域マネジメント組織である「名立区農業振興協議会」の機能強化を図り、中山間地域等直接支払交付金の集落協定や多面的機能支払交付金の活動組織等を交えた協議体を形成し、各種取組を下支える。

【名立区】グループワーク

～取組の実践に向けたロードマップ～(令和5年4月12日決定)

グループ名「 担い手 」

取組内容	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
①農業体験の受入に向けた体制整備 【事業主体:名立区認定農業者会】	受入先の設定 (農家・地域)						
	・認定農業者会総会、役員会で受入先の選定 ・認定農業者会会員による会員以外の受入先の掘り起こし ・アンケート調査の実施						
②農業体験希望者の受入 【事業主体:名立区認定農業者会】		○農業体験希望者の受入募集 ・市・県HPを活用 ・新・農業人フェアや各種就農フェア等への出展による募集(市事業の活用)		○おためし農業体験者の名立区での就農 ・国・県事業等の活用による機械施設等の導入支援 ・担い手協議会や各機関・団体等による技術指導や経営支援			
③担い手の募集 【事業主体:名立区認定農業者会】	○名立区内の後継者を望む者の把握 ・受入先アンケート調査とあわせ実施	○体験希望者と合わせ担い手となる候補者も募集		○地域内における担い手農業者の確保 ・国・県事業等の活用による機械施設等の導入支援 ・担い手協議会や各機関・団体等による技術指導や経営支援			
④農業体験の実施 【事業主体:名立区認定農業者会】		○受入先農家での農業体験の実施(市のおためし農業体験等の事業活用) ・体験者への聞き取り ・聞き取り結果を今後の体験事業の改善に活用					
⑤空き家情報の発信 【事業主体:市】	○名立区内における空き家情報の把握 ・自治会長へのアンケート調査等により実施	空き家情報の発信(市・県HPを活用) ・地域の担い手となる者への空き家の斡旋 ・各種補助事業による空き家リフォーム支援					
⑥農作業の協同化 【事業主体:農家組合・関係機関】	集落(地域)内での話し合い ・担い手協議会や関係機関・団体等による設立に向けた支援 ・先進地への視察研修や設立に向けた各種研修回答への参加			○集落営農組織・法人の設立 ・法人設立支援事業の活用や農業機械・施設等の導入支援事業の活用 ・農業体験希望者の受入 ・就業者の確保			

※基本は名立区認定農業者会が中心となって実施するが、名立区内全体を対象とするアンケート調査の実施等については対象範囲が広く、また、実施できる対象組織がないため別に対応をお願いしたい。

【名立区】グループワーク

～取組の実践に向けたロードマップ～(令和5年4月12日決定)

グループ名「 作物選定 」

取組内容	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
梅を新植する	梅の老木化の状況把握 新植可能地の検討、補植の検討 (平場での新植も検討)	梅の新植・補植 (市単補助事業の活用も 検討)	既存梅の収穫				新植、既存梅の収穫
	中心的組織 ・名立梅栽培組合	梅組合を核とした組合員の募集・拡充 (高齢化はあるが収穫時期が他と重複しない。 獣害が無い。)					
ソバを生産・拡大する	中心となる組織の把握 (宇山耕作組合、折居ソバ生産組合 他) ソバ栽培の意向の確認 (他地域でのソバ栽培の意向について確認) 組織間の連携構築 (折居汎用コンバインでの刈取り連携) ソバの生産・拡大 (市単補助事業の活用も検討) 及び生産拡大に向けた実証実験						
	中心的組織 ・宇山転作組合 ・折居ソバ生産組合						
	ソバを活用したイベントの検討・実施						
情報を発信する	地域全体の情報発信拠点の検討 情報発信形態の検討 (インターネット、ホームページ作成) ・宇山耕作組合ホームページ更新 ・輝く里不動産の会のホームページ等での発信 ・新商品のPR						

【名立区】 グループワーク

～取組の実践に向けたロードマップ～(令和5年4月12日決定)

グループ名 「 農業機械 」

取組内容	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年
農作業の共同化を進める	農作業の共同化を希望する農業者の実態把握(農業者アンケート)	具体的にどの作業が共同化できるのかを検討	新たな組織の立ち上げ準備(必要に応じて)	新たな組織の立ち上げ、運営開始(必要に応じて)			
		農作業を共同化するための組織形態を検討(組合?法人?)	先行事例視察	オペレーターの明確化	共同利用機械の購入(補助事業活用)	組織のステップアップ(法人化、農地の集積・集約化等)	
ドローンによるカメムシ防除を共同で実施する	カメムシ防除の実態把握(共同?個人?)	ドローン防除希望調査、とりまとめ	防除委託業者選定、委託料交渉	ドローンによるカメムシ共同防除の実施			
		ドローン防除のデモ運転依頼		地域内のドローンオペレーターの掘り起こし	ドローン操縦技能資格取得	ドローンの購入(補助事業活用)	地域内組織による自前でのドローン共同防除実施
ラジコン草刈り機による法面除草の共同作業	法面除草の実態把握(共同?個人?)	ラジコン草刈り機による除草希望調査、とりまとめ		ラジコン草刈り機による法面除草の共同実施			
		ラジコン草刈り機のデモ運転依頼	地域内のラジコン草刈り機オペレーターの掘り起こし	ラジコン草刈り機の購入(補助事業)			

“将来ビジョン”の実践に向けた取組方針

1 将来ビジョン実践のポイント

(1) 将来ビジョンの地域内への浸透と気運の醸成

みらい農業づくり会議における話し合い参加者だけでなく、他の農業者や農業団体はもとより、区内全体に将来ビジョンを浸透させ、気運を高める。

(2) 他の協力者や参加者を巻き込んだ地域ぐるみの取組に拡大

様々な機会を捉えて積極的に呼びかけを行う中で、多くの協力者や参加者を取り込み、地域ぐるみの取組に発展させる。

2 推進体制

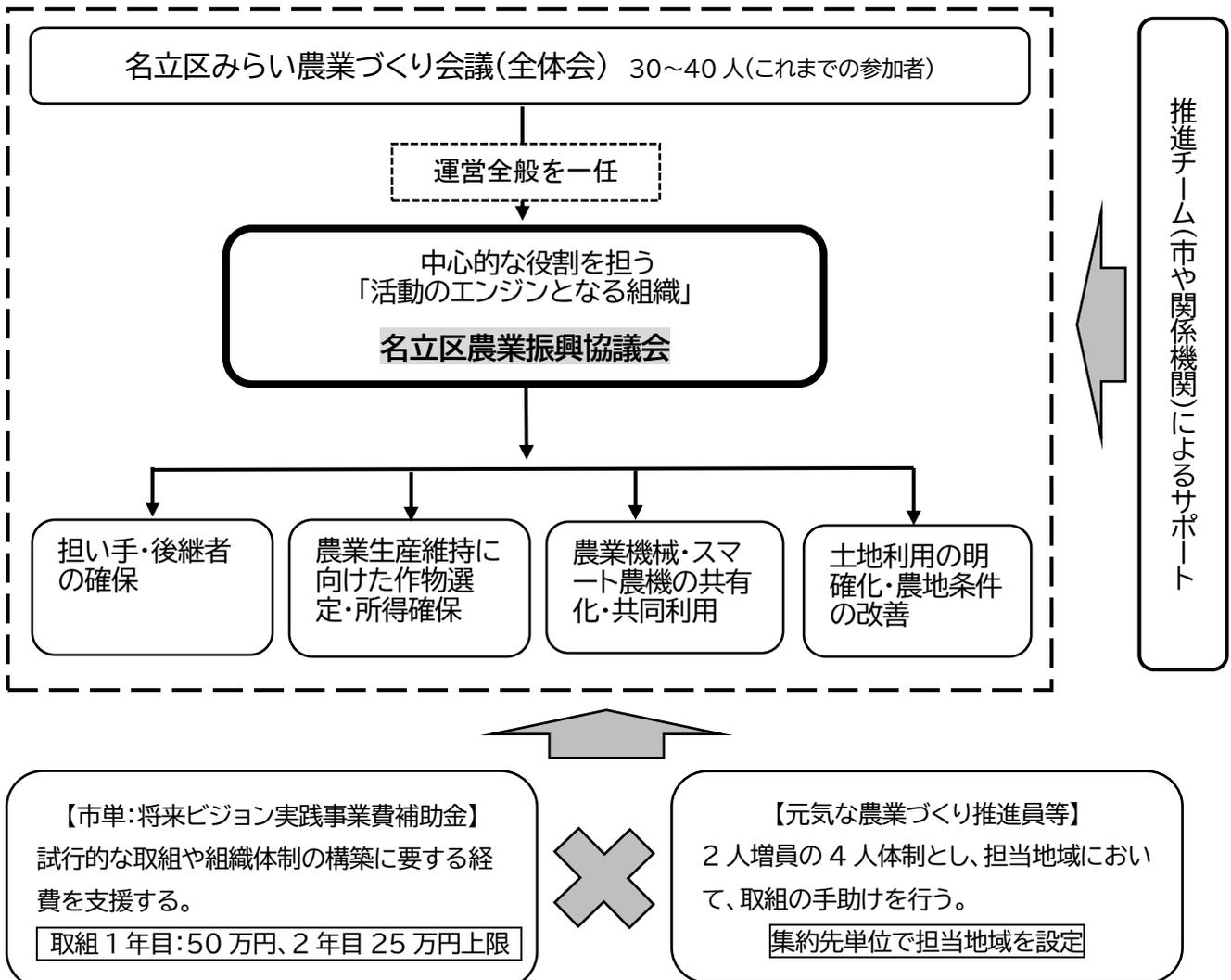
(1) これまでどおり、市や関係機関で構成する推進チームの枠組みで地域の取組をサポート。

(2) みらい農業づくり会議（全体会）は、6月を目途に開催し、今後の運営全般を「名立区農業振興協議会」へ一任する。

(3) これを受け、名立区農業振興協議会は、地域における中心的な役割を担う「活動のエンジンとなる組織」として、各4つテーマの取組の進捗管理を行うとともに、将来ビジョン補助金等の活用検討や経理・資金管理などの事務局的な役割を担う。

(4) また、名立区農業振興協議会は、その年の活動計画や活動状況などを適宜情報発信し、区内への共有を図る。（市ホームページ、名立区フォトニュースなど）

[参考] 推進体制イメージ



ろばた館利活用検討会 意見内容まとめ

日時：令和5年5月22日（月）午前10時～11時

場所：名立区総合事務所 2階 第2会議室

○各団体から出された意見（概要）

団体名	意見（概要）
(株)ゆめ企画名立 細谷社長	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、業務委託を受けて管理しているが、従業員が高齢化してきている。 ・スタッフだけでは行事等ができなくなってきているので、地域の団体等からも協力いただきながらやっていけたらと思う。
名立まちづくり協議会 三浦会長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討するのは温浴と食堂がなくなった以降の話なのか、それまでの期間を含めてなのか、どちらを目標として考えるかで話し方が変わってくるのではないか。 ・名立まちづくり協議会では、南部地区の敬老会の会場に利用している。 ・このほか、住民福祉会、名立区いきいきサロン運営協議会、老人クラブ連合会、上名立地区振興協議会など、様々な団体が会の活動で利用している。参加者も喜んでいるが、そこには温浴と食堂という大きな要素が関係しているため、それらの機能の廃止後の活動については、状況を見て考えていかなくてはならない。 ・温浴と食堂がなくなったあとの利活用を考えるのは、現実的には厳しい。利活用という面で考えていく方法もあるが、避難所や憩いの場という地域にとって不可欠な場所として残していくという考えでもよいのではないかと思っている。 ・ろばた館だけの問題ではなく、名立区全体の地域活性化という広い視野でろばた館の活用を考える議論が必要。
上名立地区振興協議会 吉沢会長	<ul style="list-style-type: none"> ・温浴のボイラー修繕費がどのくらい掛かるのかというのが分からないと何とも言えないが、温浴を必要としている人がいるということに配慮してもらいたい。 ・施設を活用していくのであれば、使いたい機能を残すことが必要。
名立区住民福祉会 松本会長	<ul style="list-style-type: none"> ・懇親会をやるにしても帰りのバスの時間が合わない。

団体名	意見（概要）
喜楽会 沢田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月31日以降（機能廃止後）の所管が市か地元か分からないと議論ができない。 （回答）農村振興課 佐藤課長 ・令和7年3月31日で温浴と市営としての食堂機能は廃止したいと考えているが、現状の貸館機能と避難所機能は残していく方向で考えている。 ・今のところ地元への譲渡ということは考えていない。 ・厨房機能もある施設なので、貸館以外の活用も皆さんのお考えがあればお聞かせいただきたいと思っている。
長生会 山口会長	<ul style="list-style-type: none"> ・当会でろばた館の花壇の花植えを行っており、作業後は慰労会をしている。また、総会や忘年会、新年会にも利用している。 ・建物は残るとのことなので、利用していくことはできるかと思っている。 ・食堂の時間が午後1時30分までだと少し短い。2時までにならないか。
農業振興協議会 渡辺会長	<ul style="list-style-type: none"> ・建設当時は作ることに注力して、現在の人口減少や維持管理までは考えられていなかった。 ・農業団体としては、地域の皆さんと一緒に地域を盛り上げるための核としていかなくはならない施設ではないかと思っている。
農業振興協議会 山本会員	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃した農地を使って蕎麦を栽培しており、ある程度収穫できるようになったので、地元で蕎麦を提供できればと思っている。 ・十日町市の蕎麦屋で市外ナンバーの車ばかりが停まっている様子を見た。蕎麦に限らずその地域の特産品を提供していることがうまくPRできれば、新しい芽が出てくるのではないかと思う。 ・温浴と食堂機能はなくなるということだが、設備を残しつつ少しでも核になるものの芽を出せば、トライしてみる価値はあるのではないか。 ・我々は生産者なので、製品は作るが、販売やPRは専門の方たちにやっていただければと思う。

ろばた館利活用検討会 出席者一覧

開催日時：令和5年5月22日 午前10時～

会 場：名立区総合事務所 2階 第2会議室

○参加団体

団体名	出席者	
名立区地域協議会	会長	原田 秀樹
〃	副会長	高宮 秀博
名立まちづくり協議会	会長	三浦 元二
上名立地区振興協議会	会長	吉沢 磯一
名立区農業振興協議会	会長	渡辺 孝治
〃	会員	山本 益人
名立区住民福祉会	会長	松本 新一
喜楽会	会長	沢田 國子
長生会	会長	山口 敏夫
(株)ゆめ企画名立	社長	細谷 貴雄

○上越市（オブザーバー）

所属名	出席者	
農村振興課	課長	佐藤 朋美
〃	副課長	廣田 祐一
〃	係長	横尾 訓男
名立区総合事務所	所長	桐木 茂
〃	次長	本間 綾子
〃	班長	石崎 順一

ろばた館に関するアンケートにおける活用案

令和3年7月に実施した「ろばた館に関するアンケート」の自由記載欄において、以下の利活用案につながる意見があった。

○利活用案要約一覧

活用案	意見（要約）
食の場としての活用	<ul style="list-style-type: none">・わざわざ行っても食べたいと思われる職人をつれてくる。（例えばうまいそば、うまいラーメン）・行列のできる食べ物屋を誘致する。・ここに来ないと食べられない様なメニューを提供する。
イベントでの利用	<ul style="list-style-type: none">・広い空間をいかして、子供達や老人が楽しめるようなイベントを行う。・イベント会場として区外からの人々を呼び込める事業を行う。・年間計画をたて毎月イベントを実行していく
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none">・夏期休暇の期間は合宿のできる宿泊施設にする。・お盆に帰省される方が素泊まりできるようにする。
区内で定期的な利用	<ul style="list-style-type: none">・利用会費制を募り、町内会等で定期的にご利用する。・利用チケットを発行し、各戸に購入してもらう。
憩いの場	<ul style="list-style-type: none">・南部地区の憩いの場とする。
サークル活動の場	<ul style="list-style-type: none">・囲碁や将棋の場（役場OBの協力を得て）とする。併せて子ども達にも教える。
読書スペース	<ul style="list-style-type: none">・他の施設にはないような特色のあるものにする。例えば岩波文庫本が全部そろえてあれば、本を読むのが好きな人は訪れるようになるかもしれない。